

1. 評価結果

作成日 平成20年 11月4日

【評価実施概要】

事業所番号	3671800427
法人名	医療法人 一樹会
事業所名	グループホームサンファミリー
所在地	徳島県美馬市脇町字榛原1354番地2 (電話) 088-53-2332

評価機関名	徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年11月4日

【情報提供票より】(H20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 12月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	15 人 常勤:14人, 非常勤:1人, 常勤換算:東ユニット7人 西ユニット7.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	0 円
	または1日当たり	- 円		

(4) 利用者の概要(H20年10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	8 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 81 歳	最低	65 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤内科、佐藤外科、佐藤歯科
---------	----------------

徳島県 グループホームサンファミリー

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は県道に面し、住宅や病院、老人保健施設などが立ち並ぶ一角にある。裏道は交通量が少なく道沿いに事業所の農園もある。利用者は散歩や農園での草取り・作物の収穫など、地域の人たちと親しみながら生活している。利用者のアセスメントにはセンター方式を導入し、持てる力を引き出し継続できるよう支援している。職員は明るく、利用者を温かく見守りながら共に生活している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な課題である「地域との付き合い」、「運営に関する家族等意見の反映」、「同業者との交流を通じた向上」、「災害対策」は改善されている。しかし「運営推進会議を活かした取り組み」については改善に至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>サービス評価の意義はビデオ研修などで全職員が理解に努めている。またミーティングなどで評価内容・結果について話し合い、具体的な改善に繋げている。また今回の自己評価についても話し合いの場を持ち、全職員で取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議には家族、地域住民代表、ボランティア、市役所担当者が出席している。会議内容は利用者の様子や支援内容、評価結果の報告に加え、参加者から地域の祭りや行事の情報を聞いたりホームに対する意見をもらったりしている。情報や意見などは職員間で話し合い、具体的なサービスの質の改善につなげている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>契約時や面会時、運営推進会議などで相談などを伝えてもらえるよう繰り返しお願いしている。特に面会時にはゆっくりと関わり、要望などを話してもらいやすい雰囲気づくりに努めている。家族から出してもらった意見などは職員やそれぞれの関係者間で話し合い、日頃の支援や運営に反映させている。また重要事項説明書には内外の相談窓口を明示して、外部へも意見などを言える機会や場があることも説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの農園で近所の方に苗をもらい、植えつけ時期を教えてもらったり、小学生や地域の子どもと一緒に芋掘りを楽しんだりするなどの交流を行っている。また地域の祭りや行事、ふれあいサロンなどに出かけたり、拝西自主防災会に加入して訓練に参加したりするなど、地域の一員として相互の協力・連携体制を楽しんでいる。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で意見を出し、地域との交流と連携を図りながらその人らしく安心と安全の暮らしが継続できるよう事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティングや申し送りなど機会あるごとに理念について確認して全職員で共有し、利用者が地域の中でその人らしく暮らしていけるよう、実践にむけて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方から苗をもらい、植えつけ時期を教えてもらったり、芋掘りには小学生や近所の子どもが参加したりしている。また祭りの神輿や踊りのボランティアなどの来訪がある。老人会の「いきいきサロン」に利用者職員と一緒に参加し、血圧測定や健康の話をするなど地域の一員として双方向の交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義はビデオ研修などで全職員の理解に努めている。またミーティングなどで評価内容・結果について話し合い、具体的な改善に繋げている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には家族、地域住民代表、ボランティア、市役所担当者が出席している。会議内容は利用者の様子や支援内容、評価結果の報告に加え、参加者から地域の祭りや行事の情報を聞いたりホームに対する意見をもらったりしている。情報や意見などは職員間で話し合い、具体的なサービスの質の改善につなげている。しかし開催頻度は4か月に1回であり、2か月の開催には至っていない。	○	運営推進会議は2か月に1回開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者を訪問してホームの現状や諸課題について相談や報告を行い、助言や指導をもらいながらサービスの質の改善・向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の心身状況や生活状態、金銭管理の記録については、家族の来訪時に個別記録を見てもらいながら、ゆっくりと話す機会を設けている。また手紙や電話での報告も行っている。定期的に発行しているホーム便りには利用者の暮らしぶりが分かる写真を多く取り入れ、エピソードが添えられている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時や面会時、運営推進会議などで相談などを伝えてもらえるよう繰り返しお願いしている。特に面会時にはゆっくりと関わり、要望などを話してもらいやすい雰囲気づくりに努めている。家族から出してもらった意見などは職員やそれぞれの関係者間で話し合い、日頃の支援や運営に反映させている。また重要事項説明書には内外の相談窓口を明示して、外部へも意見などを言える機会や場があることも説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者と職員の馴染みの関係を重視し、やむを得ない場合の異動も最小限に抑え、各ユニットに担当者を固定している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は管理者や職員の資質向上のため、年間の計画を立てて法人内外の研修に積極的に参加する機会を設けている。また職員は福祉専門誌を活用して学習したり、働きながらのトレーニングも実施している。研修内容はミーティングなどで報告して話し合い、報告書は全職員に回覧して共有されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入して研修会や会議に参加し、他事業所の管理者や職員と積極的に情報・意見交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には職員が自宅を訪問したり、利用者や家族にホームを見学してもらったりして、話をしながら徐々に馴染んでもらいながら入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から、共に生活する中で人生の教訓、掃除や調理など生活の知恵・技を教わるなど、相互に支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の生活歴や希望・思いを詳細に家族などから聞きとったり、本人の表情の変化なども見逃さないよう注意したりして、暮らしの希望や意向の把握に努めている。また職員はいつでも利用者の近くで寄り添うことを心がけ、表現の少ない方には身体に触れて話をするなど、一人ひとりに合わせた工夫を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントにはセンター方式を導入し、利用者や家族などからの聞き取りによって課題分析を行い、関係者間で話し合いながら計画を作成している。介護計画は利用者や家族に説明されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は期間に応じて見直している。また毎日の健康チェックにより少しの状態変化も見逃さず、予防的な対応を行うことも含めて利用者や家族、必要な関係者間で話し合い、随時見直しが行われるなど、現状に即した計画が作成されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院や送迎などできる限りの要望にそうよう支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族と話し合い、希望するかかりつけ医と連携しながら適切な医療が受けられるよう支援している。また定期検診は関連法人の医療機関で実施している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については利用開始時から利用者や家族、かかりつけ医などと話し合い、全員で方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営規程や重要事項説明書に、個人情報保護や秘密保持を明示していることに加え、職員からも秘密保持の誓約書を提出してもらうなど徹底が図られている。また職員の言葉遣いや対応などは和やかに行われ、さらに日々のミーティングなどでも繰り返し話し合い、意識の向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はテレビ観賞や書道、絵画、散歩、洗濯など一人ひとりの生活リズムによって思い思いに過ごしている。また自発的な行動が少ない利用者には、職員が寄り添いながら業務を行うなど、より心地よい生活が送れるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事はホームの農園で一緒に育てた旬の野菜や果物を使用し、準備や配膳、後片付けなど利用者一人ひとりの能力を活かしながら楽しんでいる。職員も一緒に同じ食事を食べ、利用者のペースに合わせて、急かさずゆっくりと話しながら食べ終わりを待っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	畑に行った後にシャワーを浴びるなど、入浴の時間は一人ひとりの思いを重視して支援している。また安全を確保した上で着替えや洗身など残存能力を活かしながら、その人に応じた支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食卓拭きや配膳、豆のすじ取り、畑の草取りや鍬すきなど、それぞれの役割や楽しみごとを見つけ出し、その人なりの経験や智恵を生活に発揮できるような場面を支援している。利用者が洗濯したり干したりするため、一段低い物干し竿を増やしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や周辺の草花の水やり、農園の手入れ、買い物など一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。桜やチューリップ、コスモス、菊花展など季節の移り変わりが楽しめる花見やオデオン座の催し、町の行事にも積極的に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関前は公道で、車の往来が激しく危険なため施錠しているが、ホーム横と裏出入口は自由に出入りできるよう常に開放している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て年2回、避難・通報・消火器使用の訓練を行っており、事故防止委員会を中心に火災や地震について体験学習と安全対策の実践が行われている。また地域で作っている揮西自主防災会の訓練にも一緒に参加し、ホームも地域の一員として相互の協力態勢が確保されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの嗜好や健康状態を把握し、事業所の栄養士と協働して栄養バランスの良い食事や献立の工夫を行っている。食事や水分摂取量は毎日、記録されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周辺や居間などには花が生けられ、壁には利用者の書いた習字や俳句、手作りのカレンダー、干支の貼り絵や行事の写真などが飾られている。居間と対面式になっている台所からは、包丁できざむ音やごはん・煮物の匂いが流れている。その中で豆のすじ取りや調理の手伝いをする人、利用者同士話をしたり、一人でゆったりとくつろいだり、それぞれ居心地よく過ごされている。またどのソファにも手編みのカバーがかけられており温かさが感じられる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはテレビを置いたり写真を飾るなど、本人が居心地よく過ごせるよう家族と相談しながら支援されている。		